

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

株式会社丸菱ホールディングスは、「企業使命感:食品産業のパイプ役 繁栄の使途」及び「私たちの信条」に基づき、国際社会の目標である「持続可能な開発目標(SDGs)」を考慮した事業活動を行い、社会・経済の発展と地球環境保全に貢献していくとともに、コアバリューである「誠実」「感謝」「努力」を基本理念として、SDGs達成に向けた活動に積極的に取組みます。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)	
☑ 環境	CO2排出量の測定 炭削くん導入	項目	CO ₂ 排出量の可視化と削減に向けた「炭削くん」の活用
☑ 社会		現状(2025年)	更新時(3年後)
☑ 経済		導入中	CO ₂ 排出量の測定活用
☑ 環境	全社営業車のハイブリッド車への移行	項目	ハイブリッド車の導入
☑ 社会		現状(2025年)	更新時(3年後)
☑ 経済		170台中29台	170台中60台
☑ 環境	社内業務のDX化促進による時間外労働の削減 社内バックオフィス業務および営業活動へのDX化を推進し、労働生産性を向上させることにより、時間外労働を削減し、従業員の健康増進を図る	項目	社員1人当たり月時間外労働
☑ 社会		現状(2025年)	更新時(3年後)
☑ 経済		一人当たりの月間時間 平均25時間	一人時間の月間時間 平均22時間

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、それを評価するための指標項目と、現状の数値および更新時(3年後)の数値目標を記載してください。**前期と同じ取組みの場合は、現状の数値と下記の前期実績が一致しているかをご確認ください。**

<パートナーシップ>

全仕入先各社とお得意先各社とは取扱商品を通して、フェアトレード産品やエコプラスチック包材、紙製ストローやカップなどを提供している。また、益城町とは「災害時における物資供給に関する協定」を締結。熊本バスケットボール(株)とは食育とスポーツを連動させた取組を協同で企画実施している。

・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標に係るこれまでの進捗状況>

三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	複合型食品加工工タウン事業推進 体験型の食品工場群と食育体験や産官学共同事業を機能的に組み合わせた複合型食品加工工タウン事業の推進し、新しいサステナブルな食品産業の在り方を模索する	2025年 ・地区開発計画承認 ・第1期工事完了
	進捗状況(実施状況および達成・未達成状況、 未達成の場合理由記載)	前期の指標に対する実績
	当社は、2022年より熊本ヴォルターズとの連携のもと、地域子どもたちを対象とした食育教室を継続的に実施しており、地域とともに歩む複合型食品加工事業の基盤づくりを進めています。教育・体験・製造が一体となった拠点構築を見据え、食育体験と産官学連携の融合を通じた複合型食品加工工タウンの実現を目指し、2025年度の第1期完了に向けて計画通り進行中であり、目標達成としました。	食育教室を2022年から毎年実施。複合型食品加工事業の基盤構築に向けた関係機関連携・体験プログラムの一部実施済。 2025年の第1期完了に向け順調に進行中。
三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	CO2排出量削減 自社工場のLED化促進や社有車のHV型エコカーへの切り替え、冷暖房調整による電気使用量削減の複合効果により、社内CO ₂ 排出量を削減する	2024年3%削減(2021年比)
	進捗状況(実施状況および達成・未達成状況、 未達成の場合理由記載)	前期の指標に対する実績
	社内施設のLED化やHV車両の導入を推進し、冷暖房使用時間の最適化にも取り組んでいます。省エネ意識向上のため啓発活動も実施しておりますが、目標数値の確定はできておりません。2025年までの目標達成を目指して継続的に進めています。	2023年度におけるLED化率は達成。HV車導入率は50%となり、CO ₂ 排出量の測定については今期から取り組みを開始し、次年度に向けたデータ整備を進行中。
三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
☑ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	社内業務のDX化促進による時間外労働の削減 社内バックオフィス業務および営業活動へのDX化を推進し、労働生産性を向上させることにより、時間外労働を削減し、従業員の健康増進を図る	社員1人当たり月時間外労働 2021年29時間 2025年20時間
	進捗状況(実施状況および達成・未達成状況、 未達成の場合理由記載)	前期の指標に対する実績
	社内バックオフィス業務および営業活動へのDX化を推進し、労働生産性を向上させることよう取り組んだが、目標は未達成となりました。今後も、時間外労働を削減し、従業員の健康増進を図っていきます。	社員1人あたりの月間時間外労働は2021年比で10.3%減少し、全社的に生産性向上の成果は認められたが、2025年の社員1人当たり月時間外労働は22時間30分となり、目標未達成。(2021年の一人当たりの月時間外労働は29時間30分)

・「三側面」、「前期のSDGsに関する重点的な取組み」と「前期の指標」には、前回登録申請した際に記載した「三側面」、「SDGsに関する重点的な取組み」と「指標」をそのまま転記してください。
・「取組みの進捗状況」には、前期の重点的な取組みの実施状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。
・「前期の指標に対する実績」には、「前期の指標(数値目標)」に対する実績を数値を用いて記載してください。
※提出前に全てセルが青色から白色に変更になっているかをご確認ください。